

入選

声をかける勇気

宮崎県 五十市中学校 1年 中村 心音

「どうされましたか？」

母が、なにか困っていそうな人に声をかける場面をなにか見かけた。混雑している歯医者でどこに座ろうか困っていた女の子。お店の駐車場で迷子になった子どもを探していた女性。声をかける前は詳しい事情はわからなかったが、声をかけることで、困っている方の事情がわかり、座れる場所を見つけたり、女性が店に迷子の連絡をしている間に、車のところに戻ってくるかもしれない迷子の子どもの女性に代わり待つことができた。

私だったら、声をかける勇気がなく、なにか困っていそうだなと思っても、見て見ぬふりをしてしまうかもしれない。声をかけることに戸惑いはないのか、母に聞いてみた。返ってきた母の答えは意外だった。以前は、母も私と同じように声をかける勇気がなかったそうだ。

しかし、あるできごとがきっかけで意識が変わったという。6年前のクリスマス間近のある日、母が1歳の弟を連れて買い物に行ったときのことだ。精算しようと、しばらく食品レジに並んでいたところ、眠くなった弟は機嫌が悪くなり、大声で泣き出したそうだ。クリスマス前ということもあり、レジは長い行列が出来ていた。一度は買い物をあきらめようとしたが、かごにはたくさんの商品を入れており、大声で泣いている弟を連れ、商品を売り場に戻すのも大変だと考え、レジに並び続けることにした。弟を一生懸命あやしても、泣き声は大きくなるばかりで困り果てていたが、ほかのお客さんはもちろん、店員さんもみな忙しそうで、気にかける様子はなかった。

そんな中、その様子を見ていた別のレジに並んでいた女性が、自分の並んでいた場所と母が並んでいた場所を交代してくれたそうだ。その女性は、ようやく自分のレジの順番が来るというときに、まだまだ後ろの母の順番とためらうことなく交代してくれた。母がその女性にお礼を言うと、

「私も同じような経験がありますよ。がんばってね。」

と言ってくださり、母は本当にうれしくて、涙が出てきたそうだ。その女性は、母に親切にしてくださいただけでなく、自分の場所と母の場所を交代することで、ほかのお母さんにも迷惑をかけない気遣いもされていた。それからは、その女性のような完璧な気遣いはできなくても、困っていそうな人を見かけたら、声をかけてみることにしているという。

私はその話を聞いて、困っている人を見かけたら、まず声をかけてみるのが小さな親切につながるのだなと思った。

私も、困っている人を見かけたら、声をかけたい。はじめはなんと声をかけたらいいのか、戸惑うかもしれない。そのときは、母の話を思い出し、勇気を持って声をかけようと思う。

「どうされましたか？」と。